

# 第9回 山鳥坂ダム環境検討委員会

動植物の保全措置に関する専門部会(第1回)の概要について

平成19年3月16日

国土交通省 四国地方整備局  
山鳥坂ダム工事事務所

# 動植物の保全措置に関する専門部会 概要

## 開催日時

平成19年3月8日 13:30 ~ 15:45

## 会場

愛媛県県民文化会館別館

## 出席者

松井宏光氏(松山東雲短期大学)

山口聰氏(愛媛大学農学部)

得居修氏(樹木医)

# 専門部会 議事

- (1) 植物に関する保全措置の  
基本的な考え方について
- (2) 具体的な移植計画について
- (3) 今後のスケジュールについて

# 保全措置対象種(植物)

「肱川水系山鳥坂ダム建設事業環境影響評価準備書」において、対象事業の実施により影響を受けると予測された植物の重要な種

ヒメウラジロ、メヤブソテツ、コバノチョウセンエノキ、アカソ、ミヤマミズ、スズサイコ、コシロネ、ゴマギ、フトヒルムシロ、ホシクサ、タツノヒゲ、イヌアワ、ユキモチソウ、ウラシマソウ、ナツエビネ、キンラン、マヤラン、クマガイソウ、ムヨウラン属の一種、ミズスギモドキ、カビゴケ 21種

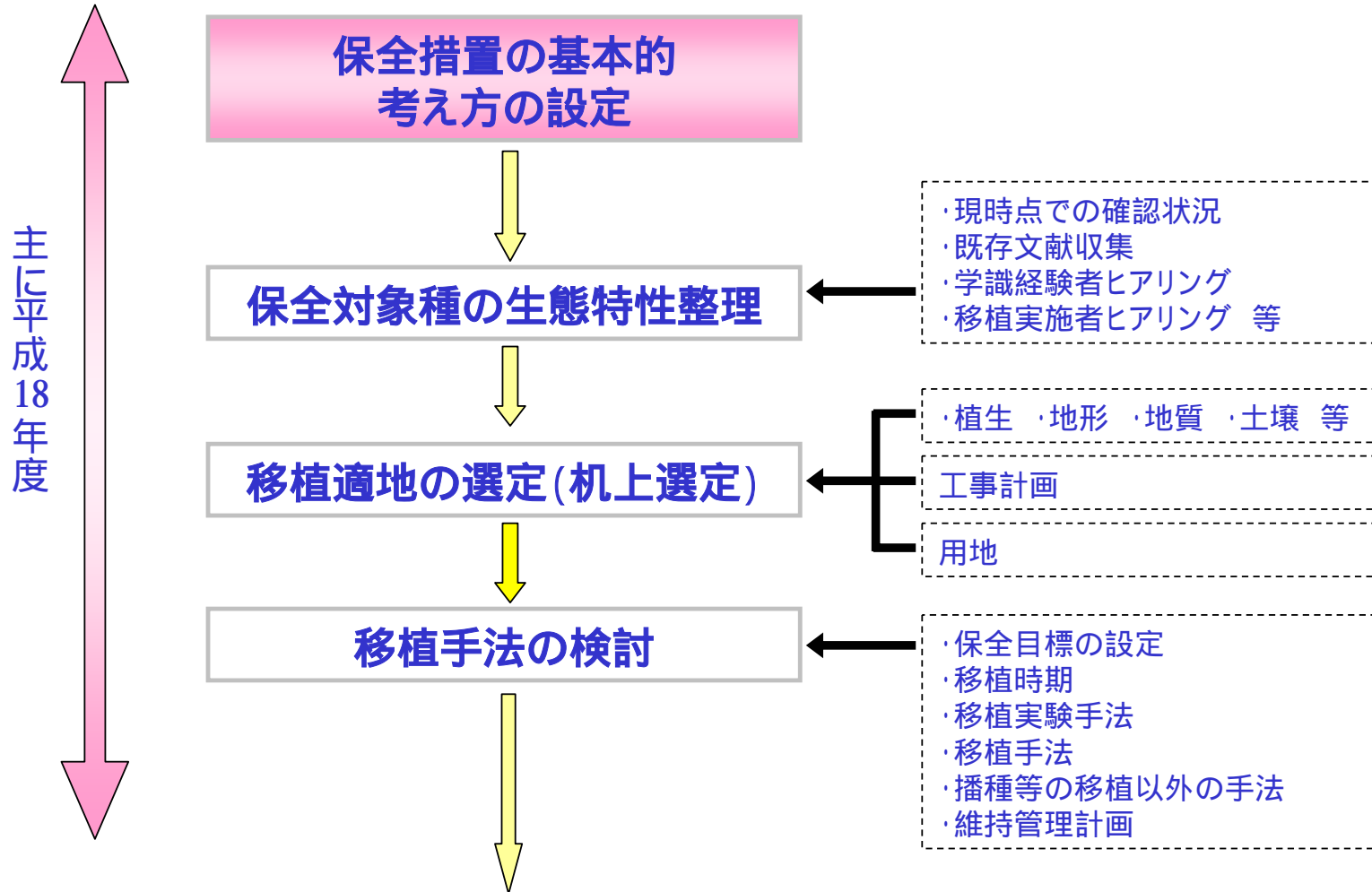
# 保全措置の基本的な考え方

山鳥坂ダム建設後においても、対象事業実施区域及びその周辺の区域において、移植対象種の個体群が維持されるとともに、個体数が大きく減少しないこととする。

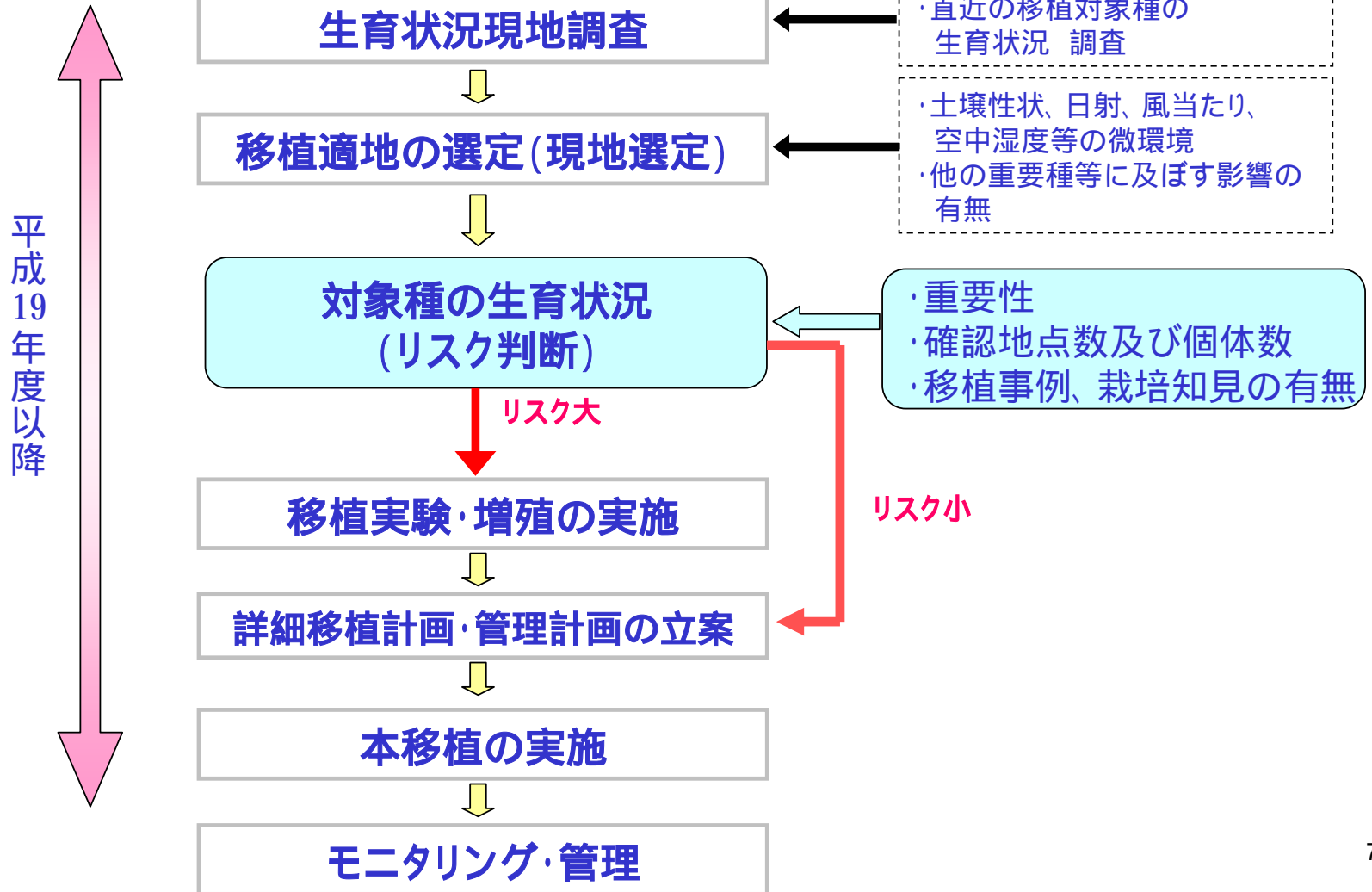
# 保全措置の概略検討項目

- ・保全目標
- ・保全措置方法  
(移植、播種、挿し木、表土蒔きだし)
- ・実施時期
- ・実施手順
- ・移植先
- ・移植実験、増殖
- ・維持管理計画
- ・来年度以降の現地調査計画の立案

# 保全措置検討フロー(1)



# 保全措置検討フロー(2)





# 具体的な移植計画対象種(平成19～20年度)

平成19年度に改変される工事区域及びその周辺に移植対象種はない。平成20年度は以下の6種が移植対象種となる。

種名	直接改変による影響	直接改変以外による影響(改変区域周辺の環境の変化)
アカソ		
スズサイコ		
コシロネ		
ゴマギ		
ホシクサ		
ムヨウラン属の一種		

直接改変は受けず、直接改変以外の影響はないと考えられるが、改変区域の周辺に生育していることから、万一の事を考え、あらかじめ具体的な移植計画の検討を行う対象種とする

# 移植計画検討結果

種 名	保全措置の方針
アカソ	移植の実験、移植、 播種・挿し木による増殖
スズサイコ	移植の実験、移植、 播種・挿し木による増殖
コシロネ	移植の実験、移植、 播種・挿し木による増殖
ゴマギ	移植の実験、移植、 播種・挿し木による増殖
ホシクサ	播種、表土蒔きだし
ムヨウラン属の一種	移植の実験、移植、 生育基盤の移植による増殖

# 平成19年度の実施計画

- ・生育状況調査
- ・移植適地環境調査
- ・移植実験及び増殖
- ・維持管理計画の検討

# 委員及び有識者による主な意見(1)

## 保全措置の基本的な考え方について

- ・保全措置の方針は、現地調査結果の状況によっては変更する。
- ・保全目標として、モニタリング目安の一定期間を5年程度とするのは適切である。
- ・適切な移植手法を検討するには、事前の生育状況のモニタリングを行い、発芽、開花、結実の時期及び状況等を確認する必要がある。

## 委員及び有識者による主な意見(2)

### 具体的な移植計画について

- ・草本の増殖手法に、挿し木を追加する。
- ・自生地から移植適地にすぐに本移植するのではなく、一度実験圃場に収容して、根等のダメージを回復してから本移植した方が成功率が高い。
- ・移植の際には、危険分散のため、1種を複数箇所に分けて移植する方が良い。

